

次官

第二課長
第三課長
第四課長

| | | | |
|---------------------------------|--|---------------|--|
| 電送第 32677 號 | | 主 管 | |
| 昭和 12 年 12 月 17 日 午後 9 時 5 分 | | 歐亞局長 | |
| 件 宛 | | 在 佛 | |
| 新南群島問題ニ関シ佛大使ヨリ申入及佛参事官井上歐亞局長會談ノ件 | | 杉村大使 | |
| 第 四 一 六 號 | | 發 廣田大臣 | |
| 名件録記 | | 昭和十二年十二月十五日起草 | |
| 電 信 案 | | 電 信 課 發 電 係 | |
| 外 務 省 | | 任 主 第三課長 | |

在京佛國大使ヨリ九日附書翰ヲ以テ左記要領ノ通申出ア

貴電第七四八号ニ関シ

(原議用紙乙)

リタリ

佛蘭西ニ依ル「スプラトリ」群島(新南群島)占有問題ニ
付昭和八、九年日佛兩政府間ニ話合行ハレ在巴里日
本大使ハ九年三月佛蘭西外務省ニ對シ日本政府ハ爾
後本件ハ落着シタルモノト考フル旨通報セラレタル處
(Clarice)

最近同群島巡航中ノ通報艦「デニーモン」ドウウリル
ハイツアバ島(知名長島)カ午谷ウ主任トスル

電 信 案

外 務 省

(右方ニテハ昭和九年三月ニ入りヤ件ニ関シ合謀リシタル記録ヲ尤モ同年三月佐藤大臣ト佛首相及外相百々合議アルモノト新南群島問題ニハ全外館ニテハ僅クテ此處ニ事至リ及リト認マラン、ニ付若シニ於テ何等記録等アリト)

2/11

電 信 案

台湾一漁業會社ニ屬スル十名餘ノ日本人ニヨリ占據セラレ居ルヲ發見セリ島上ニハ無電發信臺設置セラレ且日本國旗掲揚セラレ居タリ同人ハ「デュ」艦長ニ對シ同島嶼ニ關スル佛蘭西ノ權利ヲ承認スル能ハスト述ヘタルルガ一方佛蘭西ノ正式先占ニ紀念シキ昭和八年樹立セラレタル標識ハ破壊セラレ居タリ

佛政府ハ千谷及其ノ部下カ無智ニヨリ漁業ヲナシ且其ノ負

外 務 省

(原議用紙乙)

2/11

電 信 案

ヘル責任ヲ了解セサリシナルヘキコトヲ考慮シ差當リ「デュ」艦長ニ左記ノ命令ヲ與フルニ止メタリ

(一)「イツアバ」島ニ紀念碑^{ラニ}更^ニ建^{スル}コト

(二)千谷及其ノ部下ニ右碑破壊ノ場合ニ伴フヘキ重大結果ヲ通報スルコト

(三)千谷ニ對シテハ書^{コト}面ニテ彼ノ事業ニ關シ印度支那ノ法規ヲ遵守スル様指示スル就中^{コト}印度支那ノ領土上ニ無電

外 務 省

(原議用紙乙)

新

發信臺ヲ所有スルコトハ外國人ニハ禁セラレ居リ右ノ使用ヲ
 拋棄スルニ非ンハ官憲ノ干渉ヲ受クヘキモノナルコトヲ通告
 スルコト

(原議用紙乙)

佛國政府ハ數週間以内ニ右指令ノ實行セラレタルヤ否ヤヲ
 現地ニテ確ムル任務ヲ有スル一船ヲ派遣スルコトヲ留保スル
 谷及其ノ部下カ前記正式通告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ
 漁業外國旗使用及無電臺ノ運用ニ関スル印度支那ノ法規

電信案 外務省

3/11

ヲ遵守セサルニ於テハ群島ヲ管轄スル印度支那當局ハ右
 法規ヲ尊重セシムルヲ正當ナル一切ノ手段ヲ執ルヘシ
 二、次テ十四日「バルビエ」佛蘭西參事官并上歐亞局長ヲ來訪シ
 前記書翰ニ付我方ノ注意ヲ喚起^{スルト共}ニ速ニ回答ヲ得度シト
 述ヘタルニ付局長ヨリ本件ハ目下考究中ニテ未ダ回答ノ運
 ニ至ラサルモ自分一個ノ感想トシテ右公文ノ基礎トナリ居ル
 佛國ノ主權ヲ日本側ニ於テ承認シ佛國側ニ先占ノ主張ヲ

(原議用紙乙)

電信案 外務省

認メタルカノ如キ記述ハ全ク事實ニ及シ何等カノ誤解
 ナク思考ス從來ノ外交ノ汚名ニ於テ日本政府ハ佛團ノ先中ノ
 主張ヲ認メタルトシ又佛團ノ主張ヲ認メタルトシ
 主張ハ國際法上ニ非ズルニシテ對シテハ日本ハ佛團ノ先中ノ
 郡島ニ於テ事業ヲ営ミ來リ投資モ相當ニ上リ居ル事實
 ニ基キ權ヲ主張スルモノナリ右事實ハ佛團ノ先中ニ先立
 ヲ十年前以來行ハレ居タル所ニシテ我方ハ現今モ亦繼續
 以テ

(原議用紙乙)

電信案

外務省

執事業ヲ經營シ居ル右ノ個人ノ事業ナルモ日本政府ノ
 了解ヲ得テ行ハレ來リタルモノナリ右事實ヲ以テ從來ノ
 佛團側ノ主張ニ對抗シ來レル次第ナリ仰レキスルモ日本側カ
 佛團側ノ主張ヲ承認シタルコトナキ事誤解ナキ様致度仰
 介儀ニ追テ公文ヲ對テ回答中ニ由進スルニ置キ
 タリ

(原議用紙乙)

電信案

外務省

電信案

有宣言。打之帝玉政府ハ之ヲ承認シ居ラス

同島ノ仲領タルニトテ 認メ居ラスト答ヘ且佛ノ領

紀念碑確認ノ及平航タル旨告ケタルニヨリ 午洲ハ

ルヲ以テ之カ觀察 仲名 旗ノ再掲揚 及 當時ノ

リ在レリ) 一打ニ同島ノ昭和八年以來佛領ニ屬ス

大佐(形式上台傍ニ海洋興業ナル漢字合社ノ社員トイ

アハ島ニ下境ニ艦長外右ノ上陸ニ午右平備海軍

(原議用紙乙)

電信案

電信課長 電信課發電係

主 管 歐亞局長 任 主 第三課長

昭和十一年十一月 日起草

電送第 32672 及 32678 號

昭和十一年 十二月 九日 午後 五時 五分 發

件 宛

新南群島向類

在佛 杉村大使

廣田大臣

第四十七號

名件録記

發

電信案

外務省

電信課長

電信課發電係

昭和十一年十一月 日起草

17 33

2/11

電信案

外務省

先占の認められし本領の堅持に果しての即承認の旨を
 有宣言の通告に果しての對し我方の飽迄其
 島ノ帰属ニ関シハ昭和五年佛王政府が其ノ領
 長ノ報告ニ基カタルニテ認ラレシ。茲新報詳
 ニレシテノ抗議又在京佛王大使ノ申入ハ右艦
 隊ノ下ニ歸スルニ由リ

(原議用紙乙)

電信案

外務省

和ノ以テテ同島ノ於テ隊隊探掘ニ從テ
 之守實ニ同島ヲ日本領トシテ居ラタレトテ以テ
 本日同島ノ在任ニテ漢軍ニ從テスルハ當然ノ權
 利ニテテ帝王政府ニ之ヲ承認シ居ルニテテハ累議
 アラハ帝王政府ニ直接交渉セラルルニテテ
 以テ書ヲ交付シタル後隊隊分隊進跡ヲ察内シタルハ
 艦長等ニ後刻上陸スル旨を通告シ諸設備ヲ整頓

(原議用紙乙)

(帝國政府承認ノ下ニ)

此等増築管ニ小規模短波電台其他一施
 設~~行~~行ハルニ在^{ニ付シ}指運~~中~~裁省が^{ニ付シ}伸子政府ト
 領有權其モ^{ニ付シ}行~~中~~在^{ニ付シ}領土主權
 一^{ニ付シ}邊~~中~~家^{ニ付シ}ト^{ニ付シ}此^{ニ付シ}議^{ニ付シ}ヲ^{ニ付シ}妥^{ニ付シ}協^{ニ付シ}合^{ニ付シ}ニ^{ニ付シ}非^{ニ付シ}ズ^{ニ付シ}從^{ニ付シ}テ^{ニ付シ}其^{ニ付シ}權
 業^{ニ付シ}一^{ニ付シ}維^{ニ付シ}管^{ニ付シ}及^{ニ付シ}其^{ニ付シ}電^{ニ付シ}報^{ニ付シ}係^{ニ付シ}統^{ニ付シ}一^{ニ付シ}條^{ニ付シ}約^{ニ付シ}中^{ニ付シ}協^{ニ付シ}定^{ニ付シ}ス
 遵^{ニ付シ}守^{ニ付シ}ス^{ニ付シ}外^{ニ付シ}當^{ニ付シ}テ^{ニ付シ}其^{ニ付シ}他^{ニ付シ}諸^{ニ付シ}島^{ニ付シ}亦^{ニ付シ}同^{ニ付シ}様^{ニ付シ}ニ^{ニ付シ}行^{ニ付シ}ハ^{ニ付シ}ル^{ニ付シ}ナ^{ニ付シ}リ^{ニ付シ}

(原議用紙乙)

電信案

外務省

(原議用紙乙)

此等増築管ニ小規模短波電台其他一施
 設~~行~~行ハルニ在^{ニ付シ}指運~~中~~裁省が^{ニ付シ}伸子政府ト
 領有權其モ^{ニ付シ}行~~中~~在^{ニ付シ}領土主權
 一^{ニ付シ}邊~~中~~家^{ニ付シ}ト^{ニ付シ}此^{ニ付シ}議^{ニ付シ}ヲ^{ニ付シ}妥^{ニ付シ}協^{ニ付シ}合^{ニ付シ}ニ^{ニ付シ}非^{ニ付シ}ズ^{ニ付シ}從^{ニ付シ}テ^{ニ付シ}其^{ニ付シ}權
 業^{ニ付シ}一^{ニ付シ}維^{ニ付シ}管^{ニ付シ}及^{ニ付シ}其^{ニ付シ}電^{ニ付シ}報^{ニ付シ}係^{ニ付シ}統^{ニ付シ}一^{ニ付シ}條^{ニ付シ}約^{ニ付シ}中^{ニ付シ}協^{ニ付シ}定^{ニ付シ}ス
 遵^{ニ付シ}守^{ニ付シ}ス^{ニ付シ}外^{ニ付シ}當^{ニ付シ}テ^{ニ付シ}其^{ニ付シ}他^{ニ付シ}諸^{ニ付シ}島^{ニ付シ}亦^{ニ付シ}同^{ニ付シ}様^{ニ付シ}ニ^{ニ付シ}行^{ニ付シ}ハ^{ニ付シ}ル^{ニ付シ}ナ^{ニ付シ}リ^{ニ付シ}

(原議用紙乙)

電信案

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

各國領土及び領土帰属ニ係ル件
南洋支那ノ領土及領土帰属ニ係ル件

昭和12 三三二五〇 (暗)

巴里 十二月二十日後發 歌
本省 廿一日前着

廣田外務大臣

杉村大使

第七六三號

貴電第四一六號前段新南群島問題ニ關スル當館通報云々ノ件ニ關シ
當館ノ記録ヲ調査シタル處佐藤大使ハ昭和八年十二月二十一日「ボ
ンクール」外相ト本件ニ付會談シタル外(同年往電第六〇九號)御
來示ノ通り昭和九年三月九日「ドイメルグ」首相及「バルツ」外
相、同年十二月十九日「ラバル」外相ヲ訪問セラレタルモ右諸會談
ニ關シテハ會談録「メモ」等殘シアラス從テ同年往電第一四三號及
第五八四號ノ外右會談ノ内容ヲ知ル資料ナシ又同年一月以降本件ニ

外務省

關シ會談ヲ爲シ乃至公文書ノ類ヲ佛國側ニ提出シタル形跡ナシ尙
本件經過詳細ニ關シテハ當時ノ佐藤大使及鈴木書記官ニ就キ御聽取
アラハ判明スヘント存ス右不取敢(了)

外務省

航空便

懸案

表記スル
機密

| | | |
|----|-----|-----|
| 主信 | 發信用 | 執務用 |
| 附 | 甲 | 乙 |
| 丙 | 丁 | |
| 備考 | | |

文書課長

文書課發送

昭和拾貳年貳月廿壹日發送済

正校(原稿) (淨世)

主 管 歐 亞 局 長

主 任 第 三 課 長

昭和十二年十二月二十日起草

極秘

機密 第五三七號

昭 和 拾 貳 年 三 月 廿 壹 日 附 屬

受 信 人 台灣總督府官房

井上歐亞局長

加藤外事課長

名 件

名 人 信 發

新南群島問題及「ラサ」工業ニ関スル件

新南群島ニ於ケル開洋興業會社ノ漁業經營ノ件ニ関シテ

ハ先般貴官御上京ノ際外務省從來ノ立場並ニ態度ハ石澤第

三課長ヨリ説明有之タル處其後當方ニ於テモ現實ノ事態ニ

公 信 案

外 務 省

(12.7 4)

21 92

即應スルヲメ外務省從前ノ態度ヲ緩和シ同群島ニ於ケル事
業經營ヲ承認シ今後同群島ニ関シ生スルコトアルヘキ問題
ニ関シ海軍省ト「協力スル」ヲ針ヲ以テ進ムコトニ決定セリ
右ニ関シ「當」テ新南群島ニ於テ磷礦ノ採掘ニ從事セシコトア
リタル「ラサ」工業株式會社ハ事業再開ノ希望ニ對シテ「外
務省ハ同群島カ日佛間ニ係争ノ地トナリ居ルノ故ヲ以テ之ヲ
抑制シ來リタル「同社」ハ最近平田ノ開洋興業カ台湾總督府

公 信 案

外 務 省

ノ後援ノ下ニ同群島^島於テ漢業ヲ經營シ居ルヲ知リ本満^島前
 幹旋^島ツ^島始^島申^島出^島
 本來^島ル^島元來日本カ同群島ニ對シ佛ノ領有宣言ニ反對スル
 本件ニ對シテハ
 言係リヲ得タルハ「ラサ」工業ノ同群島ニ於ケル事業經營カ
 與ツテ力アル所ニシテ其ノ事業再開ノ希望ニ對シテハ從來ノ
 行態上相当ノ考慮ヲ拂ヒヤルヘキ必要ナルヲ認メテ以
 本出來得トハ同社ト平田^島ヲ協調セシムル^島幹旋スルコトニ決シ
 海軍側ニ對シテモ右協調^島方針^島支持^島セシコトヲ申入
 立^島場^島ニ在^島ル^島治^島務^島ヲ^島行^島ハ^島ル^島ニ^島對^島シ^島テ^島ハ^島從^島來^島ノ
 實現スル^島様^島平^島田^島キ^島口^島際^島方^島ニ^島對^島シ^島テ^島ハ^島從^島來^島ノ

公 信 案

外 務 省

レ置キタリ而シテ「ラサ」平田ノ協調形式ニ関シテハ總々兩者
 ノ直接交渉ニヨリ合理的基礎ヲ見出スヘキ筋合ナルヲ以テ右ノ
 趣旨ヲ以テ石澤課長ヨリ「ラサ」及平田ニ夫々話置キタリ
 何レ近ク貴地^島日^島本^島兩者間ニ話合行ハルヘキ旨ナルニ付テハ貴
 官ニ於テモ前記趣旨御含ノ上何等必要アラバ貴地在勤海軍
 武官トモ適當連絡シ兩者接近ノ為可然御幹旋^島相^島感^島度^島申^島入^島
 貴官御含迄^島申^島入^島不^島

公 信 案

外 務 省

歐亞局長

第三課長

新南群島問題對策

十二月二十一日別紙海軍側回答案ニ付協議ノ結果左ノ通り決定ス

(出席者、歐三石澤課長、東光、歐二與謝野、條二杉平)

歐亞局

第二課長

一先方ガ實力行使ニ出デ來ルコトハ萬無カルベキモ萬一ノ場合日佛間武力衝突トナラバ現下ノ國際情勢ニ鑑ミ甚面白カラザルニ付出來ル丈之ヲ避クル要アルベシ

條約局長

第三課長

ニ依ツテ先ヅ在京佛蘭西大使公文申入ニ對シテハ海軍側回答案第一ノ點ノミヲ述ヘ我方ノ主張ヲ明ニスルニ止メ第二ノ點(我方モ必要ナル措置ヲ講スル)ニハ觸レザルコトトスベシ(此點ハ公文ニハ明記セザルモ口頭ヲ以テ之ヲ述ブルコト)

三右回答ト同時ニ在佛大使ニ訓令シ巴里ニ於テ話合ヲ始メ問題ヲ懸案トシテ遷延策ヲトルコト

四前記趣旨ハ海軍側(東光ヨリ神中佐ニ)ニ話濟(二十二日)其他神中佐ハ次ノ通り述ヘタリ



外務省

12-11

一佛ノ紀念碑再建問題ニ關シテハ先方ガ建テル場合ニハ之ヲ建テサシメ置クベシ

ニ國旗掲揚問題ニ關シテハ更ニ研究スベシ

三無電臺ハ目下ハ氣象通報ノミ(勿論情報モ電報シ得)鳳山(高雄ノ側)ト連結ス

四「イツアバ」島ニハ千谷大佐以下十數名在住ス

五本件ハ陸軍側ニ話濟ニテ陸、海一致ノ方針ナリ

外務省

12-11

(回答書)

北朝鮮島嶼協成會 十三年十一月二十一日付

一、石津港長官に在りては、此等諸島は、

二、松平に在りては、石津港に在りては、北朝鮮島

向於、同様の海軍的調査を二付外、所有の調査は、

三、石津港長官に在りては、此等諸島は、

四、石津港長官に在りては、此等諸島は、

五、石津港長官に在りては、此等諸島は、

六、石津港長官に在りては、此等諸島は、

七、石津港長官に在りては、此等諸島は、

八、石津港長官に在りては、此等諸島は、

九、石津港長官に在りては、此等諸島は、

十、石津港長官に在りては、此等諸島は、

外務省

一、佛の實力は、此等諸島に在りては、

二、佛の實力は、此等諸島に在りては、

三、佛の實力は、此等諸島に在りては、

四、佛の實力は、此等諸島に在りては、

五、佛の實力は、此等諸島に在りては、

六、佛の實力は、此等諸島に在りては、

七、佛の實力は、此等諸島に在りては、

八、佛の實力は、此等諸島に在りては、

九、佛の實力は、此等諸島に在りては、

十、佛の實力は、此等諸島に在りては、

外務省

三、海軍側
 一、海軍側の見送りに、佐方ハ公文申入ニ拘るニ重カク
 リ候ヌトハ、乞カニヘリカ一リ候ニ、場合ハ、氣力
 重カク、多ク之ヲ阻止スベト云フアリ、
 一、場合ハ、乞カニヘリカ、
 世ノ口御石、
 以下ノ因防地、
 佐方ヲ重カク、
 手邊迄、
 外務省

右件之旨

（口御石ノ時ハ）

（佐方）

腹吐

三、前記方針ヲ貫徹スルニ
 一、
 法字任書、
 印、
 名、
 二、
 外務省

一、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 記念碑
 二、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 三、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 四、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 五、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 六、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 七、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 八、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 九、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 十、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建

外務省

一、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 記念碑
 二、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 三、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 四、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 五、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 六、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 七、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 八、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 九、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建
 十、生方⁽¹⁾の⁽²⁾ 再建

外務省

(美濃半截野紙)

陸軍側ハ本席者ノ意見トシテハ 海軍及外務省有案
ニ異存ナキニ事上局ヘ已通ヒタル上 通リスベシトシテ
ナリシヨリ 事先ヨリ 尤ハ此急手配カレ各官連ハ事考トシテ
在案ハ大佐公文申入官 海軍側意見等 外務省回答案
字ヲ手交シ置ケル

以上

海軍側ハ一日午後 外務省回答案字ヲ手交シ置ケル
事考トシテ 陸軍側意見等 外務省回答案
字ヲ手交シ置ケル

十日午後 陸軍省早退シテ 陸軍省有案
事考トシテ 陸軍側意見等 外務省回答案
字ヲ手交シ置ケル

外務省

(11.5)

機密

歐三機密第五三七號

昭和十二年十二月二十一日

外務省歐亞局長 井上 庚二郎

臺灣總督府官房外事課長 加藤 三郎 殿

新南群島問題及「ラサ」工業ニ關スル件

新南群島ニ於ケル開洋興業會社ノ漁業經營ノ件ニ關シテハ先般貴官
御上京ノ際外務省從來ノ立場竝ニ態度ハ石澤第三課長ヨリ説明有之
タル處其後當方ニ於テモ現實ノ事態ニ即應スルタメ同群島ニ於ケル
事業經營ヲ承認シ今後同群島ニ關シ生スルコトアルヘキ問題ニ關シ
海軍省ト協力スル方針ヲ以テ進ムコトニ決定セリ
然ル處嘗ツテ新南群島ニ於テ燐礦ノ採掘ニ從事セシコトアリタル「
ラサ」工業株式會社ハ再三事業再開ノ希望ヲ申越シタルモ右ニ對シ

外務省

12.7

テハ從來外務省ハ同群島カ日佛間ニ係争ノ地トナリ居ルノ故ヲ以テ之ヲ抑制シ來リタル次第ナルカ同社ハ最近平田ノ開洋興業カ臺灣總督府ノ後援ノ下ニ同群島ニ於テ漁業ヲ經營シ居ルヲ知り自分等ニ於テモ燐礦採掘ヲ再開シ得ル様外務省ノ斡旋ヲ得タキ旨申出來レリ本件ニ付テハ元來日本カ同郡島ニ對シ佛ノ領有宣言ニ反對スル言係リヲ得タルハ「ラサ」工業ノ同群島ニ於ケル事業經營力與ツテ力アル所ニツテ當省トシテハ其ノ事業再開ノ希望ニ對シテハ從來ノ行懸上相當ノ考慮ヲ拂ヒヤルヘキ立場ニ在ル次第ナルニ付同社ト平田トヲ協調セシムル様斡旋スルコトニ決シ海軍側ニ對シテモ右協調ノ實現スル様平田ニ口添方申入レ置キタリ而シテ「ラサ」、平田ノ協調ノ形式ニ關シテハ兩者ノ直接交渉ニヨリ合理的基礎ヲ見出スヘキ筋合ナルヲ以テ右ノ趣旨ヲ以テ石澤課長ヨリ「ラサ」及平田ニ夫々話置キタリ何レ近ク兩者間ニ話合行ハルヘント思考セラルルニ付テハ實官ニ於テモ前記趣旨御含ノ上何等必要アラバ實地在勤海軍武官トモ

外務省

適當連絡シ兩者接近ノ爲可然御斡旋相煩度(本信貫官御含迄)

(注) 昭和五年ノ海軍側ノ説明ニ依リ海軍トシテハ
 平田ニ先立ケテ「ラサ」ニ話合ヲ拂ヒタルニ付、
 平田ニヤエシメタル由ナリ)

外務省

不詳

歐亞局長

第三課長

(美濃半截野紙)



新南群島問題ニ関シ昭和九年佐藤大臣任ヨリ
伊外務省ニ付シテ通牒ニ付スル件

右ニ関シニ于テ四月廿四日佐藤大臣ニ対シ右詳深キヨリ
不詳ニ付シテ伊外務省ニ付シテ通牒ニ付スル件

「右詳深キヨリ」訓令ニ其外略略ナリシノミナリテ自今ハ
多特ニ又改正シテ新南群島ノ如キ一ノ問題ノタメ日佛間ニ本
格的ノ紛議ヲ起スルトハ避クヘキト考ヘタルニヨリ昭和九年
(月不詳)佛外務省ニ本ヲ呈送シテ合議ニ付シテ島嶼
ノ佛領權ヲ認ムルカ否キアトハ口ニモヤリシモ其ハ日本人
カ同島ニテ中絶アリシ事ハ可キト見出サリテ件ハ此ニ
見トシテ之ノ問題ヲ西ニ付トハ止ムルトシテ之トモトモ
但シ右ニ関シテ何等ノ記録ハ残シテアラス云々

外務省

27

極秘

第二課長

歐亞局長

第三課長

昭和十二年十二月二十七日

臺灣總督官房外事課長 加藤 三



外務省
歐亞局長 井上 庚二 郎 殿

首題ノ件ニ關シ當地軍側ニ於テ左記趣旨ノ情報ニ接シタル趣ノ
處右ハ既ニ貴地ニ於テ御了承ノコトト存スルモ爲念茲ニ報告申
進ス

左記

十二月四日午前十一時佛國軍艦「デュト・デ・アルヅイユ」
號艦長「アルズル」中佐一士官ヲ帶同シテ新南群島「イツ・ア
バ」島ニ於ケル開洋興業會社事務所ヲ訪問シテ曰ク余ハ佛國旗

臺灣總督府

掲揚ノ爲又一九三三年設置シタル紀念石碑確認ノ爲來島シタル
モノナル處「本島及附屬島嶼ハ一九三三年四月十日佛國軍艦之
ヲ占領セル際紀念石碑ヲ設置シタルカ現在存在セサルヲ以テ其
代リニ新タニ證據ノ構造物ヲ設立シタリ（註・本構造物ハ十二
月三日四日ノ二日掛リニテ築造セルモノニテ「コンクリート」
臺上ニ高サ三尺幅二尺奥行二尺ノ煉瓦造リ外側ヲ「コンクリ
ト」ニテ固メ中ハ空虚何カ封ジタルモノノ如シ、屋根アリ、外
全部ヲ國旗色ニ塗り表面ニ France. Ile Itu Aba. Et. de Pendances.
10 Avril. 1933. 39141237. ノ文字アリ）就テハ之ヲ毀損セバ重大事
件惹起スベシ」云々ト申述ベ別添英文々書ヲ交付セリ之ニ對シ
同社事務員ハ「支那人「ジャンク」其他水取ノ爲來往スルモノ
アルニ依リ右構造物ニ對シ責任ヲ負フコトヲ得ズ又同文書ニ對
シテハ自分ハ會社ノ一事務員ナレバ本社ニ宛テ右文書及貴官陳

(五ト)
此處消筆例
ニ同筆多クハ
アリト由ナリ

タイプライター用紙

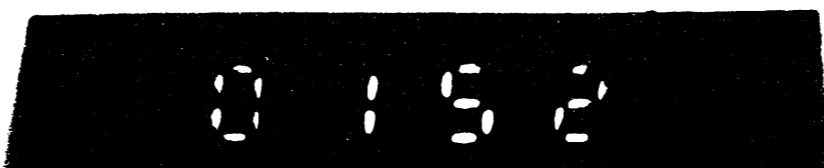
(日本標準規格 B4)

述ノ次第ヲ報告スベシ」ト答ヘタルニ、同艦長ハ「余ハ政府ノ
代表者ナルヲ以テ、余ノ文書及陳述モ公式ノモノナリ」トテ文
書ノ領收「サイン」ヲ要求セルモ全事務員ハ之ニ應諾セズ、「
日本人同胞ハ二十年前本群島ノ地圖ヲ作製シ燐鑛採收事業ヲ繼
續實行シ居ル」旨ヲ説明シ尙當時ノ寫眞及記録ヲ示シ「以上ノ
理由ニ依リ我等ハ本群島ノ日本領土タルベキガ自然ニテ正當ナ
リト信ズル」旨ヲ述ベ左記書面ヲ佛艦長ニ交付セリ
追テ全艦ハ六日午前十時出港セリ

臺灣總督府

タイプライター用紙

(日本標準規格B4)



記

吾人ハ開洋漁業會社ノ從業員ニシテ現在本島等根據地トシテ貝及龜ノ漁獲ニ從事シツツアリ佛國ハ昨年本島ヲ同國ノ領土ナリト宣言シタルモ、帝國政府ハ是ヲ認メ居ラズ數十年前ヨリ日本人ハ本島ニ於テ燐礦採掘ノ專業ヲナシ事實上本島ヲ領土トナシタルモノナルヲ以テ吾人ガ今日此處ニ居住シテ漁業ニ從事スルハ當然ノ權利ニシテ帝國政府モ之ヲ認メ居ル次第ナリ。日本人ガ過去ニ於テ本島ニテ作業セル遺蹟ハ今尙現存スルヲ以テ案内シテ御目ニカクベシ、吾人ガ本島ニテ漁業ニ從事中ナル事ニ對シ抗議アラバ帝國政府ニ直接交渉セラレ度シ。

臺灣總督府

タイプライター用紙

(日本標準規格B4)

電信案

外務省

ル 類イリ 申上 台念

アトトシ右ト述ハ申上 如左 何等 比 殊ハ 域シテ 了 申

リシモ 本件ハ 此上 日本トシテモ 同敷ク 申上 ンガ ンアトハ 止ム

ニ 在リ 今 漢ハ 際 佛 領 有 取リ 認ムルカ 如キアトハ 口ニセ 加

（本時 會法 以後 本件ニ 關シテ 一ナク 申上）

（原議用紙乙）

（分類）

電信課長

電信課發電係

歐亞局長 在 佛

第三課長

昭和二十二年十月廿四日起草

電送第 33949 號

略平 昭和二十二年十月廿九日 午後二時三十分發

件 宛

（秘） 第四三七 號

名件録記

發 廣田大臣

件 英領新島問題

宛 杉村大使

（略）

（何月ナリヤ 記 係 理 ナラス）

佐藤外大臣ニ 確カシムル 如 申上 九日 畢 佛 外 務 省

（原議用紙乙）

（分類）

第三課長

第二課長

第一課長

鈴木儀典 申上

29 20

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| * 發信用 執務用 | | | |
| 主信 | 1 | 3 | 4 |
| 附 | 甲 | | |
| | 乙 | | |
| | 丙 | | |
| | 丁 | | |
| 備考 | | | |

空 次官 大臣 有 條約局長 第二課長

文書課長 文書課發送 昭和拾參年壹月拾壹日發送済 淨書 正校(原稿) 昭和十二年十二月廿二日起草

主 第三課長 任 第三課長

機密 第一 號 昭 和 拾 參 年 壹 月 拾 壹 日 附 屬

受 信 人 名 在 京 佛 蘭 西 大 使

廣 田 大 臣

件 名 (新南群島問題ニ關シ 在京佛國大使ヨリノ申入ニ對スル回答案)

以書翰啓上致候陳者本年十二月九日附第一三一號書翰ヲ以テ新南群島ノ歸屬竝ニ「イツアバ」島ニ於ケル帝國臣民ニ依ル漁業ノ經營、帝國々旗ノ掲揚及無電發信臺ノ設置ニ關シ御申越ノ趣聞悉致候

公 信 案 外 務 省

抑モ新南群島ノ歸屬ニ關シテハ昭和八、九年共和國政府ト帝國政府トノ間ニ話合行ハレタルハ事實ナルモ帝國政府ハ共和國政府ニ依ル同群島ノ先占ヲ承認セルコトナク其ノ理由ハ當時在巴里帝國代理大使ヨリ詳細貴國外務省ニ申入レタル通ニシテ其ノ後ニ至リテモ帝國政府ハ未タ嘗テ佛國ノ同島嶼領有ヲ認メタルコト無之從ツテ御來示ノ如ク友誼的ナル意見交換ノ結果在巴里日本大使ヨリ昭和九年三月佛蘭西外務省ニ對シ帝國政府カ本件ニ關スル從來ノ主張ヲ放棄セル

公 信 案

外 務 省

(12.7 1)

11 192

ヤノ感觸ヲ與フル言明ヲナシタリトノ點ハ全然事實ニ反シ右ハ共和
國政府ノ何等カノ誤解ニ基クモノト思考致候

次ニ御來示ニ依レハ最近新南群島ヲ巡航中ナリシ貴國通報艦「デュ
ーモン、ドゥヱリール」號ハ群島ノ一部タル「イツアバ」島カ千谷ヲ
頭トスル臺灣ノ一漁業會社ニ屬スル十名餘ノ日本人ニヨリ占據セラ
レ居ルヲ發見シ島上ニハ無電臺設置セラレ且日本國旗掲揚セラレ居
リ同人ハ同艦長ニ對シ同人ノ定着セル同島嶼ニ關スル佛蘭西ノ權利

公 信 案

外 務 省

ヲ承認スル能ハスト述ヘ更ニ佛蘭西ニ依ル同群島ノ正式先占ヲ紀念
シテ佛蘭西官憲ニヨリ昭和八年樹立シタル標識ハ破壊セラレ居リタ
ル趣ナル處帝國臣民ハ十數年以前ヨリ元來無主物タリシ同島ニ於テ
自由ニ且障礙ナク各般ノ事業ヲ經營シ來レルモノニシテ右事業ニ附
隨シ必要ナル氣象通報ノタメ無電臺ヲ設置スルハ經營者ノ自由ナル
ヘク又帝國臣民カ自己ノ建造物ニ日本國旗ヲ掲揚スルカ如キハ當然
ノ儀ト思料セラレ候

公 信 案

外 務 省

更ニ共和國政府ハ「デューモン、ドゥヴリール」號艦長ニ對シ

(一)「イツアバ」島ニ昭和八年佛國ニ依ル先占ノ明瞭且永續的ナル紀念碑ヲ更ニ建設スルコト

(二)千谷及其ノ仲間ニ右碑破壊ノ場合ニ伴フヘキ重大結果ヲ通報スルコト及

(三)千谷ニ對シ書面ヲ以テ其ノ事業ニ關シ印度支那ノ立法上及行政上ノ規定ヲ遵守スル様指示スルコト

公 信 案

外 務 省

ヲ命令セラレタル旨竝ニ右指令ノ實行セラレタルヤ否ヤヲ現地ニテ確ムル任務ヲ有スル一船ヲ派遣スルコトヲ留保スル旨御通報有之タル處先ツ第一ノ點ニ關シテハ佛ノ先占其ノモノニ異議ヲ有スル帝國政府トシテハ遺憾乍ラ右紀念碑建設ヲ承認スル能ハス第二ノ點ハ右ノ碑建設セラレサルニ於テハ問題發生セサルヘク第三ノ點ニ關シテハ帝國政府ハ既述ノ理由ニ基キ千谷ハ彼ノ關係スル事業ニ關シ帝國政府ノ監督ニ服スヘク印度支那ノ法規ヲ遵守スル必要無之次第ナル

公 信 案

外 務 省

キ次ノ指指係係

軍令部ノ意見
 必名ルニ
 ア概ニサレハ
 カ...

コトヲ確信致シ居リ候萬一以未示ヨリ印度支那島ガ帝國臣民ノ現地ニ於ケル事業ニ何等製肘加、
 又其施設ニ障礙ヲ与ハトスルニ於テ帝國政府トシテは、^{（後方）} 保護ヲ措キテ可ク立至ニノ功有
 是ヲ要スルニ帝國政府ハ日佛間ニ存續シ來レル友好ナル關係カ本件
 ノ如キ一小問題ニヨリ阻礙セラレサランコトヲ念願スルニ依リ新南
 群島ニ於テ帝國臣民カ現ニ行ヒツツアル事業ニ對シ共和國政府官憲
 カ何等障礙ヲ與ヘラレサランコトヲ要請スルト共ニ萬一御來示ノ通
 共和國政府カ帝國臣民ノ現地ニ於ケル事業ニ何等製肘ヲ加ヘ又ハ
 其施設ニ障礙ヲ加ヘムトスル如キ場合ニハ帝國政府トシテモ之ヲ默
 許スル事ナラズ

公 信 案

外 務 省

視シ得サルノ事態ニ立チ至ルコトアルヘキヲ茲ニ併テテ指摘致候
 右回答旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

公 信 案

外 務 省

